

一〇 遊ぶ子ども

佛は常にいませども
人の音せぬあかつきに

現ならぬぞあはれなる
ほのかに夢に見え給ふ

萬劫年經る龜山の
苔むす岩屋に松生ひて

下は泉の深ければ
梢に鶴こそ遊ぶなれ

松の木蔭に立寄りて
扇の風も忘られて

岩もる水をむすぶ間に
夏なき年とぞ思ひぬる

遊をせんとや生れけん
遊ぶ子どもの聲聞けば

戲せんとや生れけん
わが身さへこそ揺がるれ

風に靡くもの 松の梢の高き枝 竹の梢とか 海に
帆かけて走る船 空にはうき雲 野邊には花すゝき
月影ゆかしくば 南面に池を掘れ さてぞ見る 琴
のことの音聞きたくば 北の岡の上に松を植ゑよ

鳥は見る世に色黒し 鷺は年は経れどもなほ白し
鴨の首をば短しとて繼ぐものか 鶴の足をば長しと
て切るものか

熊野へ参らんと思へども 徒歩より参れば道遠し
すぐれて山きびし 馬にて参れば苦行ならず 空よ
り参らん羽たべ若王子（梁塵秘抄）

若王子
今の和歌山縣
東牟婁郡本宮
村にある若王
子神社。